

提出された意見	意見に対する市の考え
<p>私は現在、精神障害と認定され、障害基礎年金を受け取り、障害者手帳を利用させていただいております。福祉作業所(事業所)に通所しております。その上で、自作の作品を販売できるスペース、もしくはインターネット上で販売するスペースを市に作っていただきたいと希望します。フリーマーケット等にはスペース確保の料金とそれに見合う商品を運ぶ手段が必要です。インターネットなら独自でも可能でしょうが、業者や個人との取引の手続き、配送や送金などの手続きが必要であり、なんらかの障害を持っているということや、社会での経験が無いことなどで手を出しづらい状況です。現在、ハローワークで仕事を紹介していただくためには主治医の意見書でフルタイムでの勤務が可能、と書いていただかなければ仕事を紹介してもらえない状況です。ハローワークを通さずにアルバイト等の面接に行きましたが、全て断られました。理想は障害を持ちながら年金や福祉に頼らず、社会で生活できるだけのお金を稼ぐ、もしくはそれに見合うだけの報酬を得ることだと思います。私が現在できることは事業所で社会生活、日常生活のスキルと仕事をする上でのスキルを習得、向上させていくことだと思います。ただ、人手不足が叫ばれる中、断られるということは、職場において私が存在することが不利益になるという事でしょう。それを曲げてまで働きたいとは思いません。理想は高いと思いますが、芸術系の作品の場合、社会生活等のスキルにそれほど影響されることなく、その作品に見合う対価を得ることが出来ると思います。それが全てとは思いませんが、自分の力で稼ぐ、という権利と機会、そのための場所と条件をなんらかの形で整えていただきたいと願います。</p>	<p>本市においては就職を希望する障害者の方を支援する機関としては、ハローワークの他に木更津市内に千葉県からの委託事業で、就業に向けての相談や援助、日常生活や社会生活での支援を行っている「障害者就業・生活支援センターエール」という機関もございます。ご希望にある、自作の作品の販売方法については、障害福祉課の窓口で対応いたします。</p>

<p>生活支援コーディネーターを育成されてきましたが、p.56の図にもありません。p.60の図にもありません。どんな活動になるのでしょうか。</p>	<p>千葉県が開催している生活支援コーディネーター養成研修の受講により育成を図ってきました。木更津市においては平成27年度に19人が養成研修を終了しています。選定した生活支援コーディネーターを中心に平成28年5月に組織した「木更津市在宅医療・介護連携推進協議会」の社会福祉・生活支援部会において生活支援サービスの構築を図っていくこととしています。P56の圏域図に追記します。</p>
<p>コミュニティソーシャルワーカーとは、社会福祉士の資格などを持っている方と思われるが、社会福祉協議会や地域包括支援センターで勤務しているのではないだろうか。</p> <p>p.56の図では、団体がいろいろある中、コミュニティソーシャルワーカーが個人で連携するよう見える。社会福祉協議会で働く地区担当と位置づけか。</p>	<p>現段階では、コミュニティソーシャルワーカーは、「社会福祉協議会の職員」であって、地区社協の担当的な位置づけを想定しておりますが、将来的には、社会福祉協議会が地域住民の中から、適任者を発掘し、育成し、各地区に配置し、組織的に支援・連携することも視野に入れて取り組んでいきます。p.56のスケジュールを修正します。</p>
<p>p.85 社会福祉協議会の自主財源の強化とあるが、募金にまだ頼っている計画と思われる。</p>	<p>自主財源確保の手段の一つとして、社協の広報PR活動を兼ね、新たに平成29年度には社協役員を中心に同実行委員会を組織し「第1回木更津市福祉チャリティゴルフ大会」を開催することで準備を進めております。地域福祉活動計画に「会員の増強に努める。社会福祉協議会の活動をPRしていく。」旨を追加記載します。</p>

<p>p.81 コミュニティソーシャルワーカーは、サロンでの傾聴ボランティアの相談活動と連携して活動とあるが、傾聴ボランティアは、相談活動ではないと私は考えている。</p> <p>居場所、自分を認めてもらえる、こころに安定感を暮らしにうるおいをもたらすものと考えている。相談はその副産物である。傾聴ボランティアをしている場合、それは、こう思います。あなたはこうするほうがいいということは、せずに、相手の話に共感し、よりそい、耳を傾けるのであり、その場合、本人から、あきらかに、解決の方法として、相談を依頼された場合、自分にできること、できないことがあるので、むやみに引き受けず、本人の了解をとって、コミュニティソーシャルワーカーに、このことを話してもいいかと了解をとって、初めて相談となる。単に、つながりではなく、相手を尊重し、傾聴するということは、そういうことだと思ふ。安易に計画で、傾聴ボランティアの相談活動と書かれてしまうと、本来の主旨とずれた解釈をされてしまうことを懸念する。</p>	<p>「傾聴ボランティアの相談活動」は、「傾聴ボランティア」と記載を改めます。</p>
<p>p.78 買い物弱者を応援する取り組みとして、買い物アンケートを第二次計画ではすすめ、第三次計画では、買い物弱者を応援する取り組みはどのように考えているのか。</p>	<p>計画への追加記載は行いませんが「買い物サポートガイドブック」のPRや更新を行うほか、支援策を研究・検討していきます。</p>

<p>p.84 民間事業者の経営ノウハウなどを学び、円滑な事業運営を行い安定した収入の確保に努めます。とあるので、買い物弱者を応援するための生活支援サービスをすすめる活動は、ニーズがあると考えます。</p> <p>ゆうあいサービス事業 利用会員 7 人 協力会員 (有償ボランティア)7 人</p> <p>福祉有償運送事業 利用会員 3 人 協力会員(有償ボランティア)3 人</p> <p>これらは、事業といえるのか、先行き、展開予定がなければ、廃止に。また、逆に、これらを買物弱者とリンクさせ、アピールして協力会員と利用会員をふやすことで、安定した事業につながるが、どのように考えているのか。</p>	<p>他の団体などが育ち、利用者も僅かとなっている事業は、社会福祉協議会が行う必要が少なくなったと判断し、事業の廃止をして新たな事業・活動(成年後見、アクティブ等、地区社協の活性化、ボランティア育成等)を検討していきます。</p>
<p>避難行動要支援者への支援体制づくり</p> <p>取組内容はすべていいのですが、ある程度作成されていないと災害はいつ起こるかわかりませんが、明日起こるかもしれませんので早急にやってほしいです。特に避難訓練は自治会主催でやっていますが、高齢者・障害者などあまり参加していないのが現状です。</p>	<p>現在、対象者(高齢者や障害者)に対して、担当課(総務課)が、意向調査を行っており、同意を得られた方の名簿を作成し、自主防災組織や自治会等に提供する予定です。できるだけ早く進めていきたいと考えております。</p>
<p>高齢者&amp;障害のある人などの当事者組織(自治会)への支援活動の具現化を早急をお願いします。</p>	<p>計画への追加記載は行いませんが、老人クラブ、障害者団体などの当事者組織、支援団体、市社会福祉協議会および市が連携し、ニーズを把握し、当事者組織の活動支援に努めていきます。</p>